



# 報徳@なう

発行人: 田嶋 享

## 令和3年度(2021年度)の活動実績 食品配布が69ト、前年比40%増加

令和3年度も、皆様方のお蔭で、食品配布量を前年度に比べて40%も伸ばすことができました。

コロナ禍で、生活に困っている方々がそれだけ多くいられるということです。

	入荷 数量(ト)	配布	
		数量(ト)	配布先
① 2020年度	56.9	49.5	107
② 2021年度	73.2	69.3	110
増減数量	+16.4	+19.7	+3
増減率	+29%	+40%	

四捨五入の関係で計算が合いません。ご了解下さい。

令和4年度も、私たち報徳食品支援センターはさらにながらば参りますので、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

以下特記事項を記します。

### 食品入荷 73ト 前年比29%増加

食品入荷も前年比で大幅に増えました。



① 常時ご提供下さる食品メーカー、フードバンク上部団体、商業者等のご支援がありました。味の素AGF(株)様(11ト)、フードバンクかながわ様(8.5ト)、全国食支援活動協力会様(ご紹介分(11.1ト))他多数の方々からご

支援がりました。

また、餃子の王将様からは、ひとり親家庭の子どもたちに夏休み・冬休み・春休みに鶏の唐揚げ弁当の提供がありました。

### ② 地元の企業・学校・その他団体からSDGs

「貧困・飢餓の撲滅」「食品ロスの削減」につながる食品のご寄付がありました。特に小田原市内の相洋高校の生徒会様のご寄付は、日本の将来のためにも広まって欲しい活動です。神奈川県が掲げる「フードドライブ」の運動を小田原・箱根商工会議所様が会員企業に呼び掛けていただいた効果も大きかったと思います。有効期限の短い蒲鉾等の「冷蔵品」も、現物を頂いた当日・翌日配布で対応し、喜ばれました。コロナ禍の中、宴会が少なくなり、お酒が売れません。ということで、京都府庁様から伏見の酒造メーカーで余った酒米を頂きました。酒米ですが食べてとてもおいしかったです。

### ③ 食品現物ではなく、現金での補助金を頂き、

それを生活困窮家庭の要望に添うように、報徳食品支援センターで購入・配布する試みもありました。

まずは、昨年4月、子ども食堂向けの「こども基金」の助成金ですが、コロナ禍で子ども食堂が開けない代わりに、この助成金で生活困窮家庭に直接、食品・お菓子の配布を行ない、2.6トの米(2kg×1300世帯)等を購入・配布しました。

今年3月に厚生労働省の補助金「ひとり親家庭等の子どもの食料等支援事業」でも、一世帯当たり一万元の食品、とそれに加えて子ども一人当たり二千五百円の食品相当の助成金を現金で頂いたので、

合計5.2トの食料を購入して配布しました。ひとり親家庭の支援を行なってきた当センター女性スタッフが、生活実感で食品を選んでくれたので、もらったご家族は大喜びでした。また障害者施設の職業指導のお菓子工房でもお菓子作りの仕事ができ、そちらも大喜びでした。

このようなひとり親家庭への補助金事業は、是非今後も継続して頂きたいと思えます。厚生労働省様よろしく申し上げます。そして、地元の自治体も是非ともご配慮下さい。

④そして、なによりも多くの個人の方々が、自宅のたまねぎ・ジャガイモ等の収穫物等をお届け下さいました。ありがたいことです。

### 食品配布が69ト 前年比40%増

グループ別に配布実績を見ると、子ども食堂(18.9ト)、41団体)、母子家庭支援組織(17.3ト)、5団体)、外国人支援組織(15.6ト)、3団体)等です。その団体を通じて、個々の会員家庭・子どもに食品を提供しています。これらの団体は食品頒布会を実施しながら、本当に生活に困窮している方々に食品をお届けできるように配慮されています。

社会福祉協議会(5.2ト)、7団体)、市役所・役場等の行政(1.2ト)、10団体)です。ところで、日本国憲法の第25条では

「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」

国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」人が普通に暮らせることを国・行政が国民に保障したものです。

現在、国民年金・雇用保険・生活保護等の諸制度から漏れてしまって、どん底の生活を送られる方々が多くいます。市役所・役場、社会福祉協議会はこれらの方々に直接向き合う行政機関ですから、もう少し本当に生活に困っている地元民への対応にご配慮頂きたいと思っています。

### その他トピックス

#### ①クラウドファンディング実施

報徳食品支援センターは、無償で食品を受け入れ、無償でその食品を配布します。但し、事務所の経費、人件費等、数百万円の経費がかかります。日々資金繰りに苦労しています。30万円相当の会費以外は、寄付・補助金に応募して、資金確保しています。という背景からクラウドファンディングという募金を企画しました。9月14日から10月29日までの期間で250万円を目標にしてインターネットで寄付を募集しました。小田原市にチンチン電車を復活するためにクラウドファンディングを活用し



た事例を参考にさせてもらいました。実績は273.7万円が目標に対して109%でした。地元の方たちのご支援が大きかったです。ありがとうございました。

#### ②ヤマト運輸(株)から保冷軽トラック寄贈

今年2月にヤマト運輸(株)様から保冷軽トラックを寄贈頂きました。冷凍食品を衛生的に配送するために、保冷トラックが必要と考えていましたが、やまと運輸(株)様からその思いを叶えて頂きました。これからも、安全衛生的に冷凍食品をお届けして参ります。



#### 「食べ物の処方箋」

令和3年度の活動を振り返って感じる事。コロナ禍で生活が苦しくなった方たちへの支援が活動の柱でした。県社協ほつとステーション、町役場の福祉課や県政総合センターの福祉担当の方たちから、それらの団体が支援されている方々への食品の支給を求められる件数が増えてきました。また、ご本人がそれらの団体から当センターを紹介されて直接来られるケースもありません。地域の行政関係者から私共の活動が必要とされてきたのを感じます。

小田原は東京に較べれば支援対象となる方の数は少ないです。しかし困っている方は確実に知られます。人数が少ないから、ていねいに個別対応する事ができます。小田原市や開成町、箱根町、大井町のひとり親支援の会では、それぞれの会の家庭の状況を把握してその家庭に合った食

品を準備するよう努力されています。小田原市母子寡婦福祉会でもこの方針を続けることで食品頒布会の回数を経る毎に受領される方が増えてきています。

報徳食品支援センターが、直接個人の方に过渡する場合でも生活の状況や健康状態をうかがった上で食品を準備します。これを「食べ物の処方箋」と言っています。処方箋を話しながら書くことで、相手の方の気持ちも落ち着いて来ます。より食生活が豊かになるように、手持ちの食品在庫の中からそれぞれの生活に合わせ、できる限り適切な食品を用意するのです。

今年は、諸々の物価の急速な値上がりが始まっています。食品をご提供いただく皆様方も対応に苦慮されることも多いかと思われます。引き続きのご支援をお願い申し上げます。そのような厳しい状況の中でご提供いただく食品についてできる限り個々の生活困窮する方々の立場に配慮しながら、適切な食品を選び、お渡ししていきたいと思えます。コロナ禍に加え、急激な物価高で年金暮らしの高齢者の生活も大変になります。今年が高齢者への支援にも注力しなければなりません。

令和3年度は、私たち報徳食品支援センターは皆様方のご理解・ご支援のお蔭で活動を続けられているということです。感謝しかありません。ありがとうございます。令和4年度も、ご支援の程またよろしくお願ひします。

